

黒川真頼家蔵書目録影印(七)  
『書籍目録人中』

城田秀雄



(見返し一才)

柳屋之部	下
柳屋史	一八
東遷集	一五
徳川實録	三〇
武徳安氏記	一〇
創業記考異	六
浪華車記	一一
開羅開記	二
正慶承明日記	四
家松茂盛	一五

(二ウ二才)

御年譜	一〇
開泰記大全	一
開泰軍記大成	一一
昭代實録	一五
四戰紀開	四
武徳編年集成	九
烈祖成續	三
玉露叢	一五
綱吉公御代書之日録	二
武家盛衰記	五

(二ウ三才)

西大帥傳記	二五
四座撰式	二
森理理念新集	五
野山名實記	三
西京安文墓碣	四
國院森綱	二
傳燈抄	一
法鑑録	一
永泉餘瀾集	一
七帖見聞	三

經書譜	三
過去莊嚴劫十佛名經	一
現在莊嚴劫十佛名經	一
未來莊嚴劫十佛名經	一
慈惠道場懺法	二
滿地發輝性靈集鈔	二
樓閣慈念鈔	三
十王讚嘆抄	五
以庵和尚行狀	一
出足後誌	一

蒙好法師傳記考	一
東大寺緣起	一
藥師寺戒壇起	一
法隆寺寶篋目録	一
牛波華嚴錄起	一
吉水院靈寶記	一
勝覺寺緣起	一
勝覺寺寶物録	一
善昌寺志記	一
長谷寺寺殿起	一
附同勘文	一

伊豆山略緣起	一
法隆寺緣起三通	一
緣起類七書	一
身延鑑	一
西藩院論	四
真悟佛事編	六
新約聖書卷伯來書	一
新約聖書路加傳	一
密教諸秘抄	一

尊勝明驗錄	三
諸宗傳略	一
時人十篇	二
大唐西域記	三
大光明藏	三
天竺字源	九
大般若波羅密多經	一
釋家求々	一
後拾遺性生傳	一
排釈録	一

彼小島行狀記	一
紫微譜略	一
吉田泉好の傳	一
祖贊	一
悟道辯	一
日本世生傳	二
諸宗寶鑑	五
續弘法大師年譜	九
弘法大師年譜	一
曼茶羅秘抄	三

社寺緣起集	三
弘法大師正傳	四
聖德太子傳曆鼓吹	十
中阿含經	八
本化別頭佛觀經記	八
日本向上聯燈録	三
本願寺傳略	八
高麗傳支那	六
續高麗傳支那	二十
宋高麗傳	十五

二十五七七 黒川真頼家蔵書目録影印(七) 『書籍目録人中』

(三ウ) 四才

(四ウ) 五才

(五ウ) 六才

(六ウ〜七オ)

明高僧傳 本朝高僧傳目錄 續日本高僧傳 三冊 五冊 九	本朝法華傳 諸天傳 日本佛法史 釋林類聚 圓光大師略傳 圓光大師行狀發贊 大達解譯本 再刻什師墨傳記 圓光大師傳 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三 廿四
--	---

(七ウ〜八オ)

元和日記 慶長記 國崎物語 慶安日記 松平記 長湫站草稿 武要實錄 無之燒燼の記 東國實錄 駿河土産 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十	駿站弁別集 德川史略 武家七總 寛永日記 三朝通事 通夜物語 伏摩軍記 役衆大倍志 難波記 錦年松鈔 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十
---	---

(八ウ〜九オ)

國字分類雜記 警總錄 大坂問書 そのむかし 思出冊 二奇錄 秋卿解江戸新 舊考餘錄 野動物語 武垣吐聞書 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十	澤海存目録 錦海 天正以來御役人百年録 視聽日録 望遠難錄 天明録 農政存跡前後篇 本佐録 神武推衡録 經滿問答統録 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 廿一 廿二 廿三 廿四 廿五 廿六 廿七 廿八 廿九 三十
---	---

二 五 一 二 六 二 五 二 一 二

三三三

(十ウゝ十一オ)

(十一ウゝ十二オ)

一 一 一 一 一 一 一 一 五 二

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

二十五—七 黒川真頼家蔵書目録影印（七）『書籍目録人中』

(十二ウ十三オ)

時文橋記	一
関之秋風	一
武可志路	一
駿東秘鑑	一
享保仁政錄	一
松平家啓運記	一
寛政明史	一
福升鑑	一
渡邊幸庵話記	一
武系記	一

胎跡記	一
竹千代操御幼少物語	一
南朝公言行錄	一
三河記脱偏	一
仙臺騷動記	一
沼田城破却記	一
諸番系圖	一
死録群題	一
早多言	一
寛水小苑	一

(十三ウ十四オ)

大坂冬陣記	一
要宅船上覽記	一
太平秘覽	一
延保朝臣御書取	一
正徳年御書取	一
賴宣遺事	一
大人難話	一
大猷院殿治世略記	一
台徳院殿治世略記	一
神明通夜物語	二

國田竹右衛門書	一
神明通夜物語	一
政卿物語	一
明和風土記	一
後鳥羽公物語	一
松平判鑑	一
輪標記	一
慶長日記	一
正徳三年五月自老中問付所奉議三卷	一
寛文書	一

(十四ウ十五オ)

堀丹後守英奇聚米某日記	一
武家執後録	一
國崎記	一
藤原事物記并つて中	一
茶屋物語	一
東叡山通夜物語	一
閑依大石記	一
伊吹物語	一
殿中御日記	一
二葉之古伝	一

智囊	一
御奉下戰死筆記	一
寛延奇談	一
瀨間山水曉日記	一
賜勅松本橋路	一
雪成物語	一
慶長陣覺書	一
有徳院殿葬送記	一
備前興隆	一
明石徳光録	一

古今類語	戶山記	物語	古今名玉	瑞雲還話	踏歌度丹臺回	水戸告急編	水戸告急編	花江葉都之卷	播磨氏草紙戰記
------	-----	----	------	------	--------	-------	-------	--------	---------

きのおとて	異本管運記	三國記	武家秘史略	怨惶神論	近代正觀江戸見聞集	元正問記	松平物語	中々物語	諸家秘傳
-------	-------	-----	-------	------	-----------	------	------	------	------

(十五ウゝ十六オ)

二十五—七 黒川真頼家蔵書目録影印（七）

『書籍目録人中』

將軍家奉記  
見聞實記錄  
外山御別墅略記  
御遺狀御實入百萬條  
機見草  
晴陽來翰至筆  
中島筆記  
神田上水廣陽記  
鐫圖論  
尊佛廷議

白川城主松平越守守定信心御直佐  
講餘筆錄  
見多秘談  
文祿慶長之初日記指合戰  
勸懲記和丰忠是替役人書  
関原松平記  
日光山勸請記  
柳君上意錄  
新廬面命是本  
滿所滿水之覽寶

(十六ウゝ十七オ)

萬福村唐文鼎題抄	遊袁子倫鐵嶺寒雪四上書	龜井道齋問答十策抄抄	千代的根根	天王寺口合戰書書	明額一班抄	開席料理三首論	泖島川	車保御殿勅定記錄	天心悅無開書
----------	-------------	------------	-------	----------	-------	---------	-----	----------	--------

當時所說要教條  
三周記  
當代記  
櫻絲打六く紫の江  
津輕篇祖略記  
真武必傳  
家盛  
東職官御遺訓  
東職官御遺狀写  
本家修政手本云

(十七ウゝ十八オ)

(十八ウ〜十九オ)

福泉錄	一
蓋忠錄	一
見聞筆記	一
東照宮御教訓之寶書	一
李倭寛政中書	一
神君席文	一
本佐録	二
吉光の物語	一
名鑑雜集	一
近代公寶殿教録	二

享保島覽	一
金玉詞林集	一
龍紅藩昔話	一
長亦乃時勢而救世民之一論也	一
天室同記	一
関ヶ原合戦書	一
古今武家書	一
三河物語	一
吉田松陰先生遺文	一
柳菴集	一

(十九ウ〜二十オ)

藤野郎彦封書	一
物狂被仰生交寄心得道	一
大塩平八郎一件	一
乾菴子種	一
漸定式帳	一
和田山房成記	一
史勝圖書并綴録	一
福井藩行要	一
興の秋爪	一
啓蒙書録	一

京都藩史	一
越後縣教諭元記	一
藤長甲子記	一
日光山記	一
嶋居記	一
井國卿云龍舞臣條令	二
崖廬茶居録	一
自警治道之辨	一
天明日記	一
第壹拾録	一

(二十ウ〜二十一オ)

漸寛記	一
明徳親民記	一
武徳安民記	一
明君享保録	一
明君徳光録	一
幾川氏氏紀章	一
尊王廷録	一
武陽後録	一
武徳教書	一
大君言行録	一

正信集	一
藩室記	一
近代正説	一
享應元年正月宮中御式之記	一
當時珍記	一
古談記	一
徂矣先生太平策	一
須多因氏講義	一
柳菴時論記	一
正廣永明集	三





笠總物誌 三人夜半  
 撰集抄 角倉本  
 撰集抄 活字本  
 おくらさの 活字  
 清々納言傍註  
 清々納言系圖式  
 枕草越  
 枕草子 春曙抄  
 枕草子 眉曙抄  
 枕草子 菰束抄  
 清々納言 兼本  
 清々納言 校本  
 中務内侍日記  
 平治大納言物語  
 松浦宮物語  
 松浦宮物語  
 松浦宮物語  
 初瀬川のふり  
 物語 くらひ  
 船物語  
 船物語

(二十七ウゝ二十八オ)

二十五—七

黒川真頼家蔵書目録影印（七）

『書籍目録人中』

<p>             淸少納言字注              淸少納言 万藏抄              枕草子 字              十訓抄              淸少納言 年立              枕草子 春腰抄 鎌大 弘養令              撰鹿抄 慶安四年校              校正十訓抄              紫式部日記              枕草子 春腰抄           </p>	<p>             一              二              三              四              五              六              七              八              九              十           </p>
<p>             源家長日記              家長日記              紫式部日記 傍注              紫式部日記 教              紫式部日記              續後撰 待日記              宇治拾遺物語              十訓抄              宇治大納言物語              古枕十訓抄           </p>	<p>             一              二              三              四              五              六              七              八              九              十           </p>

(二十八ウゝ二十九オ)

一休はな  
 難々拾遺  
 難々拾遺  
 うち拾遺  
 十訓抄  
 長谷雄御物語  
 野宮集賦

二八五

(二十九ウゝ三十オ)





(三十六ウ〜三十七オ)

若衣 春秋書入本

黒川書院

五

十六夜日記續介  
十六夜日記續月針  
鈴屋 都日記  
ぬきめの記  
庚子道の記  
懸念立山記行  
大井川行幸和歌考證  
佐野のわさり  
佐野のわさり  
両夜記行

黒川書院

一

(三十七ウ〜三十八オ)

和慶記行  
萬門中將物語考證  
船乙富七記  
身延記行  
深衣子記  
東大寺大佛殿縁起  
乙寺縁起  
多武峰縁起破製記附錄  
本願寺聖人傳  
夜谷寺觀音驗記

黒川書院

一

寶物集  
寶物集  
歸來本願抄  
日蓮大聖人御傳記  
高野大師行狀記  
女生地藏縁起  
一遍上人語錄  
御傳  
當家御記縁野新

黒川書院

一

(三十八ウ〜三十九オ)

菩提心集  
一遍上人繪詞  
一遍上人繪詞傳縁起  
遍詞  
空乙上人繪詞傳  
白峯寺縁起  
高野大師行狀記  
東照大権現縁起  
多武峰縁起  
七條日記

黒川書院

二

熊野日次  
松島日記  
井上通女道之記  
急佛草紙  
育安枝  
五種人元  
徒然三箇大事  
徒然草松道抄  
樹正一凡草文段抄  
徒然草三箇之大事

黒川書院

一

越然草三章口傳	四季物語	鴨長明方丈記	寧菰菰日記	鴨長明錦倉道の記	道長准后廻國雜記
---------	------	--------	-------	----------	----------

天神繪卷物語  
國光大師六百并御忘記  
羅山外集  
古今著聞集 中爲作  
塵塚物語  
奇異難談集  
乳石竹物語  
さくらと虫物語  
玉虫のうさぎ  
妻鏡

(三十九ウ〜四十才)

二十五―七 黒川真頼家蔵書目録影印(七)

倣然草 <small>參考</small>	寂寞草 <small>一都諸系</small>	倣然草 <small>野性</small>	つぎく草	後然草 <small>踏火大成</small>	つぎく草	一蹴 <small>法語疏註</small>	こけの衣	和歌ものゝこり
-----------------------	-------------------------	-----------------------	------	-------------------------	------	------------------------	------	---------

能實時時  
 石清水臨時祭給  
 長明海道祀  
 荻原後藤祀  
 徒然草古所字  
 明長時亨文化館釋  
 松蔭のうや  
 行平後子為ううり  
 應のすこゝ給送  
 城ちく不而後久花

(四十ウゝ四十一才)

月のいふ  
 徒然草長頭九折  
 増補鉅題  
 徒然草追加  
 徒然草抄 繁寄  
 一紙法語彙注  
 徒然草諺解  
 徒然草文段抄  
 徒然草峴嶠存

[illegible]

(四十一ウ〜四十二オ)

(四十二ウ〜四十三オ)

西要鈔註  
念佛身持集  
父子相贈詩  
清水物語  
蓮如上人御一代聞書  
黒心上人拾遺書徳傳  
一言芳談鈔  
方丈記流水抄  
十番物あらそひ  
多武莽少將物語

いはつゝ  
獨鶴物語  
獨鶴物語活字  
浄土三部抄歌  
雲井の波留  
歌水平記  
川海魚太平記  
路園  
長明發心集

(四十三ウ〜四十四オ)

雜談集  
西行物語  
西行物語  
西行四事物語  
撰集抄慶長三年歌  
沙石集  
山石集  
魚太郎物語  
醒睡笑  
らへり花

みのすゝら物語  
今昔奇人録  
好色川念佛  
元禄刻小町物語  
狂歌付礼  
蘇姑射歌言  
一休の笑記  
一休の笑記  
いつゝ  
道成寺物語

(四十四ウ〜四十五オ)

さくらと  
唐錦八馬繪  
秋の夜長物語  
石のそと  
獨逸長者物語  
ぶんやう物語  
一休體骨  
いはやのさ  
或人比々花  
唐錦振齊歌

唐鏡  
尤の芋戯  
唐物語提要  
唐物語  
獨長明四事物語  
四季物語  
四季物語  
四季物語  
長州四季物語  
菅神の記

北野縁起略圖	三
高麗物語	一
浦島物語	一
さくらんぼ中橋	一
松風村雨	三
源河夜村	一
三位物語	一
妻鑑	一
鴈寓合戦物語	一
四十二物語考終	一

庄の浦仙女物語	一
雲井の春	一
常盤同春	一
四季物語	一
宇祇園國難記	一
蒙求和歌	一
蒙求和歌	一
花娘以欲情身須之并	一
よーれこき	一
月娘紀行	一

(四十五ウ〜四十六オ)

長明四季物語	一
目下一草一飲水物語	一
方丈記	一
平仲物語	一
傳美与志物語	一
陽家日記	一
國東紀行	一
出雲路日記	一
春のいとし	一
七くつお澄	一

松島日記	一
花鳥風月	一
あゝ物語	一
辯慶物語	一
墨吉相生物語	一
美のみと虎	一
文のとり	一
熱海日記	一
鶴聲女子用文	一
やまとふ	一

(四十六ウ〜四十七オ)

消息文苑	一
女子日用文例	一
婦人ことふき草	一
古今川	一
怪世譚	一
桂中將	一
花裏理	一
源千鶴	一
藤乃居	一
如譯子	一

関々事記	一
熱海日記	一
十一段さし	一
十二段さし	一
いねらの御本地	一
師さんな物語	一
あまやとり	一
のきよ	一
むんならふみ	一
物語太郎	一

(四十七ウ〜四十八オ)

二十五一七

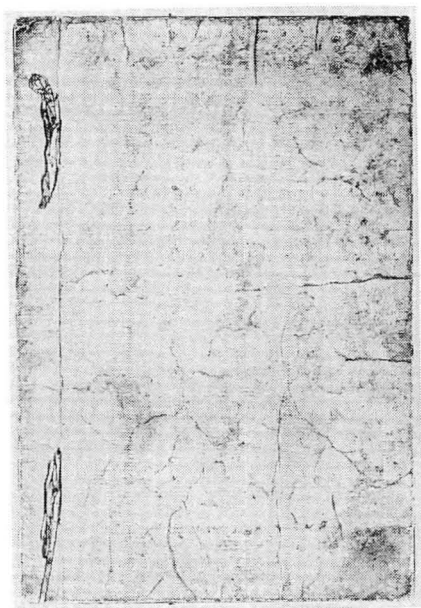
黒川真頼家蔵書目録影印(七)

『書籍目録人中』



二十五—七

黒川真頼家蔵書目録影印（七）『書籍目録人中』



## 解 題

本冊は「書籍目録 人上」の袖藏之部上につぐ巻で、表紙は「書籍目録 人中」の書外題、内題はなく巻頭に袖藏之部下とあり、その下部に朱で黒川真頼藏書の長方印が押されている。紙数は赤色野紙四十五丁、黒色野紙五十丁の計五十丁、料紙にはそれぞれ黒川書斎の版心をもつが、丁付けはどこにも見ることはできない。

黒川文庫について、その全貌を知ることのできるものは上梓されていないが、小篇によるものはいくつかあり、文庫の内容を垣間みることができる。蔵書量についても確たる数は知り得ないが、書籍目録の天・地・人を合計すれば一〇、八二二点、三五、五八二冊。金石図書目録には六五七部、六五八冊を収蔵していることになる。他に三十一部門に分かった分類目録があることは本稿四でふれたが、この三十一部門の分類体系と収録蔵書数は把握できていない。しかし、黒川本の売立てが行われた昭和二十三年には、部門別にして各図書館等に納入したことが『一古書肆の思い出 3』反野茂雄著（平凡社 昭和六十三年刊）にも記されている。三十一部門分類目録の内、明治大学図書館が所蔵する四部門の写本はその存在を証明するに足るものである。よって、この分類目録の全体を知ることができるならば黒川文庫を解明する手掛りは一層大きくなるであろう。

この三十一部門についての系統だった調査は行っていないが、いくつかの著作物に収載されたものから知り得た部門がある。ただし類似した部門名称が使われているのでその数は三十一より多いが、順も問わずに列挙すれば次のとおりであ

る。また、本稿を執筆するまでの間に実物を見て確認ができたものは十九部門あり、この部門名称については右肩に。印を付した。

地理・伝記・歴史・技芸・索引・武家・服飾・地図・官職・漢籍・物語・絵巻・文書・類書・図譜・神祇・宗教・外交・辞書・有職・故実・法制・国文・教育・遊戯・和歌・図画・釈教・儀式・地方・銭貨・制度・寺院・経済・徳川・歳時・随筆

なお、この他にも十三例をみる事ができたが出典の根拠を示すことができないので割愛した。

この三十一部門分類に対して、異った部門数や書庫数を記述したものがあるのでここに記しておきたい。一つは『趣味の古書通話』河原万吉著（啓文社 昭和十二年刊）で「それ等の全書籍は二十四種目に整然と分類されて、二棟の書庫に納められてあった。」と記されており、蔵書の部門は二十四、書庫は二棟である。二つは『日本図書館史』（新日本図書館学叢書）小野則秋著（蘭書房 昭和二十七年刊）で、「黒川文庫は二棟を持ち、蔵書を二十四部に分けて二庫に分収してあった」とし、部門数も書庫数も二十四部門、二棟と記され前著と同じである。部門を知る手掛りとして同書に次のような記述がみられる。「関東大震災に歴史、伝記、索引、技芸、随筆、地理、図譜、漢籍、絵巻、文書の部と春村の草稿全部、真頼の草稿一部を収めた一棟を失ひ」「神祇、宗教、武家、外交、辞書、有職、故実、法制、国文、教育、遊戯の部門を収蔵する一棟をからうじて止めた」とある。また、焼失により烏有に帰した貴重書として、朝鮮活字版『龍龕手鑑』、五山版『海蔵略韻』、大内本『礼部韻略』等の古版本から、内藤広前の『国史拾遺』、篠原喜一の『花のみたま』の外、岸本

由豆流、岸本由豆伎、山崎知雄、北静廬、関岡野洲良、小山田与清、村田了阿のほか、国学者の自筆稿本が失われたという。

書庫や蔵書についても、前出の『一古書肆の思い出』には「大正大震災前には、その蔵書は三つの土蔵に満ち、大判和紙と装の部類別の蔵書目録は三十一冊を数え」といい、大正大震災では「三つの土蔵の内、二つを焼いた」が、「必ずしも、全蔵書の三分の二が焼けた事を意味するわけではない」としている。「近代文学研究叢書」第八卷（昭和女子大学近代文学研究室 昭和三十三年刊）の『黒川真頼』の項には、真頼が明治二年から終焉までの地、浅草小島町に「土蔵が三つあり、八万余の書籍が収められていたが震災で二つの蔵が落ち三分の二を焼失した」とある。ここで初めて蔵書数が八万余と出てくるが、『書物道楽二条』佐藤仁之助著（『書物春秋』十五号 昭和七年一月刊）では「約三分の二は旧土蔵で悉皆烏有に帰し」たが、「あと三分の一は亀裂している新土蔵で焼けなかった」とし、「黒川翁は十二万巻の書を擁し」ていたという。そして翁は「八十六年の春秋を積ん」だとしているが、黒川真頼は文政十二年（西暦一八二九年）十一月十二日に生まれ、明治三十九年（西暦一九〇六年）八月二十九日に七十八歳で没している。東京谷中の天王寺にある墓石正面に正四位勲四等文学博士黒川真頼・妻紀伊子墓と刻され、左側面に「文良院学山真頼居士 俗名黒川真頼 明治三十九年八月二十九日卒 行年七十八歳」並んで「文鏡院紀室伊順大姉 俗名黒川紀伊 大正九年十月三日没 行年八十六歳」と刻まれている。

参考文献 『黒川真頼傳』黒川真道著 奈良書店 改訂版 昭和五十四年十二月刊（初版大正八年五月刊）

注

- (1) 五丁オ七行目 墨字で「金澤文庫印アリ」と補記。
- (2) 五丁ウ一行目 朱墨で「修驗道」と補記。
- (3) 五丁ウ二行目 朱墨で「紫野大徳寺」と補記。
- (4) 六丁ウ三行目 墨字で「但板本三冊写本六冊」と補記。
- (5) 十二丁オ七行目 墨字で「一名須賀氏覚書」と補記。
- (6) 十九丁オ四行目 墨字で「佐久間修理筆」と補記。
- (7) 十九丁オ五行目 墨字で「酒井雅楽頭一件」と補記。
- (8) 二十丁オ一行目 墨字で「東叡山造営ノ事」と補記。
- (9) 二十丁ウ九行目 「武徳拔書」の抜を朱墨で抄に訂正。
- (10) 二十丁ウ十行目 墨字で「紀伊大納言頼宣卿」と補記。
- (11) 二十一丁オ六行目 墨字で「一名武士心鏡」と補記。
- (12) 二十一丁ウ二行目 「武林林鍾録」の武林の林を朱墨で消去し、江に訂正。
- (13) 二十三丁ウ七行目 墨字で「九卷本欠」と補記。
- (14) 二十四丁ウ十行目 朱墨で「欠本」と補記。
- (15) 二十五丁オ三行目 墨字で「四世自草」と補記。
- (16) 二十五丁ウ二行目 花栄に入替の記号を付し、栄、花に訂正。
- (17) 二十七丁オ一行目 朱墨で「校本」と補記。

- (18) 二十七丁ウ一行目 朱墨で「三大人校本」と補記。
- (19) 三十一丁オ二行目 朱墨で「段付」と補記。
- (20) 三十一丁オ三行目 朱墨で「寛永本」と補記。
- (21) 三十一丁オ四行目 朱墨で「黒川本」と補記。
- (22) 三十一丁オ五行目 朱墨で「妙壽院本」と補記。
- (23) 三十一丁オ六行目 朱墨で「濱臣本」と補記。
- (24) 三十一丁オ七行目 「諸説書入」を朱墨で抹消し、「伴直方」と朱墨で訂正。
- (25) 三十三丁オ一行目 墨字で「光悦板」と補記。
- (26) 三十三丁ウ四行目 墨字で「附芦手書之事」と補記。
- (27) 三十五丁オ四行目 「狭衣」に墨字でカギ付傍線。
- (28) 三十九丁ウ四行目 墨字で「小本頭書」と補記。
- (29) 四十一丁オ一行目 「今昔物語」を朱点で抹消し、朱墨で「古今著聞集」と訂正。
- (30) 四十一丁オ十行目 朱墨で「久老校合本」と補記。
- (31) 四十一丁ウ一行目 朱墨で「校合本」と補記。
- (32) 四十二丁オ二行目 「今昔物語」を朱点で抹消し、朱墨で「古今著聞集」と訂正。
- (33) 四十二丁オ四行目 「今昔物語」を朱点で抹消し、「古今著聞集」と朱墨で訂正。